佐賀市文化財調査報告書　第52集

大野原遺跡

（おおのばる）

（5区の調査）

平成6年3月

佐賀市教育委員会

発刊にあたって

金立北部地区は平成３年度に起工され、同年度に大野原遺跡（１～４区）の発掘調査を実施し、縄文時代から江戸時代までの遺物・遺構を検出しました。本書は同地区で２例目の発掘調査となった、大野原遺跡（５区）の調査報告書であります。調査の結果、中世から近世にかけての遺物・遺構を検出しました。今回の調査区は高畑部分の狭隘な地点でしたので、遺跡の全容を把握するには至りませんでしたが、同時代の遺跡の広がりを検討する上で重要な資料となるものと思われます。

これらの資料は、佐賀市域の中世～近世の集落を研究する上で貴重なものであり、この報告書が、郷土の歴史と文化財に対する認識と理解に少しでも役立てば幸いです。最後になりましたが、調査を実施するにあたってご協力いただきました佐賀県農林部、佐賀県教育委員会、ならびに地元の方々に対しまして、心から厚くお礼申し上げます。

平成６年３月

佐賀市教育委員会
教育長　野　口　　健

例　　言

1．本書は農業基盤整備事業伴い、平成４年度に発掘調査を実施した佐賀市金立町所在の大野原遺跡（５区）の調査報告書である。

2．調査は国庫補助金・県農林部委託金を受けて、佐賀市教育委員会が実施した。

3．調査地の所在及び規模などは以下のとおり。

遺跡登録番号	1036・2026・3079	遺 跡 略 号	ＯＮＲ－５
調　査　地	佐賀市金立町大字金立字大野原	開 発 面 積	160,000㎡
調査対象面積	392㎡	調査実施面積	392㎡
遺跡調査期間	平成４年８月12日～平成５年２月４日		

4．発掘作業・整理作業・報告書作成の分担は次のとおり。

表土除去	株式会社　木塚組
空中写真	有限会社　空中写真企画
遺構実測	有限会社　若楠測量設計
遺構個別実測	福田義彦
遺構・遺物写真	福田義彦
遺物復元	貞包洋子
遺物実測	〃
製図	〃

5．調査･整理記録及び出土遺物（Ｉ種）は佐賀市文化財資料館（佐賀市本庄町大字本庄1121）で一括保管している。また、出土遺物（II種）については佐賀市循誘収蔵庫で保管している。

6．本書の執筆・編集は福田がこれにあたった。

凡　　例

1．遺構については略記号を用いる。また連番号を用いている。分類は以下のとおり。

ＳＤ：溝　　ＳＫ：土壙　　ＳＸ：不明遺構　　Ｐ：小穴

2．原則として、遺構の測定値はｍ単位、遺物のそれは単位とした。

3．表示した方位はすべて座標北（Ｇ．Ｎ．）である。

本 文 目 次

Ⅰ．序　説……1

1．調査に至る経過……1

2．調査の組織……1

Ⅱ．遺跡の位置と環境……2

1．遺跡の位置……2

2．歴史的環境……2

Ⅲ．調査の概要……4

1．調査区の名称……4

2．調査の方法……4

3．調査区の層序……4

4．調査成果の概要……4

Ⅳ．調査の記録……4

1．土壙……7

2．溝……7

3．その他の遺構と遺物……8

4．出土遺物……9

5．小結……10

Ⅰ．序　　説

1．調査に至る経過

平成４年度の金立北部地区の農業基盤整備事業は16haがその施工対象となった。このことを受け、平成３年度11月にその対象地区の埋蔵文化財確認調査を実施した。試掘調査対象地は掘削を免れない水路予定地や高畑を中心に行なった。試掘坑の設定は掘削機及び人力によって行なった。その結果、施工区内には5,332㎡の遺跡の広がりがあることがわかり、その内2,584㎡が水路等の掘削予定地であり、本調査必要が部分であった。この調査結果をもとに佐賀県農林部・佐賀県教育委員会・佐賀市土地改良課・佐賀市教育委員会の４者で遺跡の保存について協議を行なった。その結果、大半が盛土工法により保存可能ということになり高畑部分の392㎡について発掘調査を行ない、記録保存を図ることとなった。

発掘調査は平成５年１月８日から開始し、同年２月４日に全ての現場作業を終了した。また、整理作業及び報告書作成は、平成５年４月から平成６年３月にかけて佐賀市文化財資料館で行なった。

2．調査の組織

調査主体　佐賀市教育委員会

事務局　佐賀市教育委員会　文化課

文化課長　中野和彦（平成４年度）

文化課長　北原　学（平成５年度）

課長補佐兼

文化係長　江副勝利（平成５年度）

文化係長　野口義通（平成４年度）

事務吏員　増田耕輔（庶務担当）

文化財係長　福田義彦（本調査担当）

事務吏員　西田　巌（試掘担当）

発掘作業員　広瀬八重子・広瀬幸子・村川キクエ・生田美代子・福田妙子・武富サチ子・大林里子・宮崎久枝・平方スミ子・野田富子・高取フミヨ

調査協力　佐賀県教育委員会・佐賀県農林部・佐賀中部農林事務所・佐賀市土地改良課金立土地改良区・地元各位

II．遺跡の位置と環境

1．遺跡の位置

佐賀市は佐賀県の南東部に広がる佐賀平野のほぼ中央に位置し、東は神埼・千代田町、西は大和町と接している。しの北部は脊振山系が連なり、南は有明海の海岸線が約1.6kmにわたる。市域の南半は標高３m～10mの平野が広がりその北端は脊振山系から南に延びる低丘陵が派生している。

佐賀市金立町は市域の北部にあたり、その北部域は脊振山系にかかり、南部域は低丘陵・平野が広がっている。主要河川には巨勢川がありその流路を南北にとる。同町は市街化調整区域であり、土地利用状況は田・畑がその大半を占めている。

大野原遺跡は、佐賀市金立町大字金立字大野原に所在し、地形的には巨勢川等によって形成された複合扇状地上に立地している。今回の調査区は集落の南部に広がる水田の中に点在する高畑の１つである。元来もう少し広がりのある微高地であったものと考えられるが、後世の地下げ行為により、現況の狭隘な高畑であったものと考える。標高は11.5～11.9mで周囲の水田との比高は0.8～１m程度を測る。

2．歴史的環境

金立町は埋蔵文化財の宝庫であり、縄文時代から近世までの遺跡が多数所在する。Fig. 1に基づき周辺の遺跡の概観を以下に述べる。

大野原遺跡の本調査は、平成３年度に発掘調査を実施した地区[註1]（１～４区）が最初である。ここでは縄文時代～奈良時代の遺物・遺構が検出されている。中でも２区の調査で検出された弥生時代終末～古墳時代にかけての竪穴住居・掘立柱建物は当時の集落の在り方を考える上で重要な資料となっている。また、２区は古代官道が推定される地区であるが、調査により２条の平行する溝を検出しており、官道の側溝である可能性が指摘されている。この他、発掘調査が実施された周辺の遺跡には、大野原遺跡の南部に東千布遺跡[註2]（甕棺墓群）・久富遺跡[註3]（弥生時代・古墳時代・近世の集落）・友貞遺跡[註4]（弥生時代・古墳時代・中世の集落）、北部には来迎寺遺跡[註5]（縄文時代の集落の縁辺部）等がある。また、遺跡の北西約500mには国指定史跡の銚子塚[註6]前方後円墳がある。以上が大野原周辺の主要遺跡である。この他に若干距離があるが九州横断自動車道（現長崎自動車道）建設に伴い調査された遺跡に、西から三郎山遺跡・大門西遺跡・六本黒木遺跡・金立開拓遺跡等がある。

註１：西田　巌『大野原遺跡』佐賀市文化財調査報告書第48集　佐賀市教育委員会　1993
註２：福田義彦『東千布遺跡』佐賀市文化財調査報告書第15集　佐賀市教育委員会　1985
註３：福田義彦『東千布遺跡』佐賀市文化財調査報告書第15集　佐賀市教育委員会　1985
　　木島慎治『久富遺跡』佐賀市文化財調査報告書第39集　佐賀市教育委員会　1992
註４：福田義彦『友貞遺跡』佐賀市文化財調査報告書第53集　佐賀市教育委員会　1994

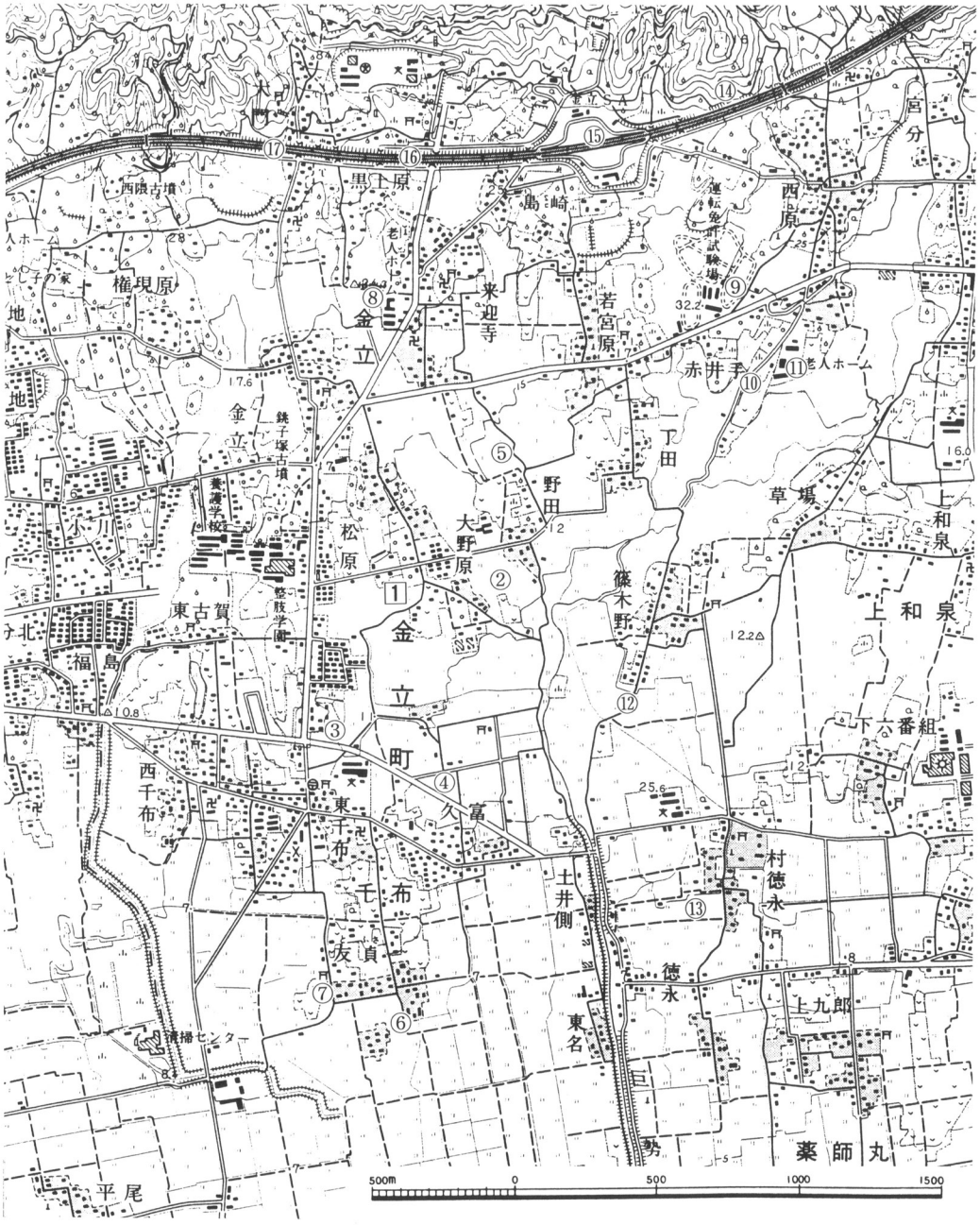


Fig. 1　大野原遺跡周辺主要遺跡分布図(1/25,000)

①大野原遺跡(5区)	②大野原遺跡(1区)	③東千布遺跡	④久富遺跡
⑤野田遺跡	⑥友貞遺跡(1～6区)	⑦友貞遺跡(7区)	⑧来迎寺遺跡
⑨大日遺跡	⑩赤井遺跡	⑪琵琶原遺跡	⑫篠木野遺跡
⑬村徳永遺跡	⑭丸山遺跡	⑮金立開拓遺跡	⑯六本黒木遺跡
⑰大門西遺跡			

註５：加藤元信「来迎寺遺跡」佐賀市文化財調査報告書第27集　1991
註６：木下之治『銚子塚』佐賀市教育委員会　1976

Ⅲ．調査の概要

１．調査区の名称

大野原遺跡は平成４年度に3,849m²を対象に実施し、１～４区までの調査区を設定している。本年度は５区とし、遺跡の表示はＯＮＲ－５としている。

２．調査の方法

発掘調査は、遺構上面の埋土除去作業から開始し、その方法は機械力によった。埋土除去後人力による掘削作業及び記録作業に入った。その際国土座標を基準に５ｍ方眼のグリッドを設定し、１/100の遺構配置図、１/20の全体平面図作成の基準とした。また、このグリッドは遺物取り上げの単位にした。

３．調査区の層序

この地区の基本土層は耕作土→黒褐色土→淡黒褐色土（わずかに砂粒を含む。）となり、基盤層（遺構検出面）に至る。遺構検出面までの深さは地点により若干の差異はあるが、平均70cmで基盤層に至る。基盤層は黄褐色土を基調とするものであったが、部分的に黒褐色土・淡黒褐色土系の砂粒混じりの地点もあった。

４．調査成果の概要

今回の調査では中世から近世にかけての遺物・遺構を検出した。検出遺構には溝・土壙・小穴等がある。溝はその大半が調査区外にも及んでおり、その性格は明らかにできなかったが、埋土中に砂粒が混在していたものもあり、区画というよりも水路であった可能性がある。土壙は確実なものとしては１基しか確認していない。出土遺物が全く検出できなかったので中世から近世の所産である以外の可能性もある。

Ⅳ．調査の記録

１．土壙と出土遺物

調査区で２基検出した。楕円形と長楕円形を基調としている。

ＳＫ011土壙（Fig. 4）

Ｃ－３グリッドで検出した。上面の平面形は、東西方向に主軸をもつ長楕円形を基調としている。中心部で東西1.85m、南北0.53m、深さ0.28mを測る。遺構底面の西壁寄りに小穴を３基検出した。底面は黄褐色の地山に掘り込まれ、前面にわたって細かな起伏がある。壁は四方

Fig. 2　大野原遺跡(2区)周辺見取図(1)(S＝1/4,000)

とも垂直に近い角度で立ち上がる。

埋土は2層に分層でき、上層黒色土、下層淡黄褐色土からなっている。遺物は全く検出しなかった。

ＳＫ012土壙（Fig. 5）

C－5グリッドで検出した。上面の平面形は南北にやや長い楕円形を基調としている。中心部で東西0．8m、南北1.02m、深さ0.23mを測る。断面は中央部が窪んでおり、壁は四方とも短く立ち上がる。

埋土は上層淡茶褐色土、下層淡黄褐色土（砂混じり）からなっている。出土遺物は全く得られなかった。

2．溝と出土遺物

調査区全域で10条程度検出した。全体的に削平が進んでおり、途中が欠失しているものもある。埋土は淡褐色土系のものを基調とし、出土遺物は土器微細片を少量検出したが、図化できるものはほとんどなかった。セクション図はFig. 6に一括して掲載している。平面図は遺構配置図を参照。

ＳＤ001溝

A～D－4～8グリッドで検出し、調査区南端を北東から南西方向に走るものであるが南側

Fig. 3　大野原遺跡(5区)周辺見取図(2)

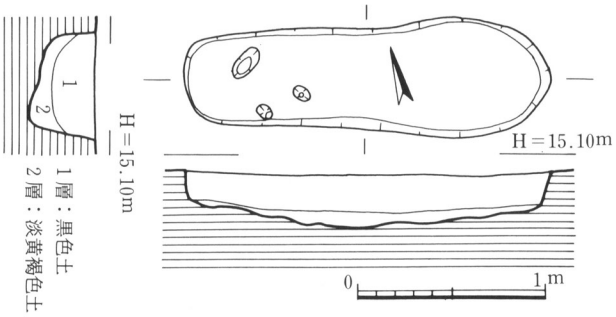


Fig. 5　ＳＫ012土壙実測図
（Ｓ＝１/40）

Fig. 4　ＳＫ011土壙実測図（Ｓ＝１/40）

の堀込み部分が調査区外に及んでおり、幅は確定できない。検出全長はＳＤ002溝とほぼ同規模の26m程度を測る。深さは、幅が特定できないため最深部はを解らないが、検出範囲での平均0.18m程度を測る。

埋土は暗褐色土を基調とするもので、底面直上にわずかに茶褐色度土が観察できる。遺物は全く得られなかった。

ＳＤ002溝

Ａ～Ｄ－４～８グリッドで検出し、調査区南端を北東から南西方向に走るものである。底面の傾斜は、北東部から南西部に向けて深くなっている。検出全長26m程度で、さらに南西方向に向けて調査区外にのびる。平均幅は0.3m程度、平均深度0.2～0.3m程度を測る。ＳＤ001を切っている。

埋土は暗黒褐色土を基調とし、全体的に締まりがなく軟弱であった。出土遺物は埋土中から微量検出したが、その全てが土師器微細片であり図化に耐えないものであった、したがってこの溝造営時期は特定できないが、埋土の状況から判断して近世の、それも比較的新しい時期の所産と推定する。

ＳＤ003・004溝

Ｅ・Ｆ－４～７グリッドで検出し、ＳＤ003がＳＤ004溝を切っている。また、ＳＤ004の南部では他の溝とも切り合っているが、当遺構が新と判断した。検出全長は、ＳＤ003が14m程度、幅0.5m程度、深さ0.1m程度、ＳＤ004が検出全長20m程度、幅２～2.5m、深さ0.1～0.15mを測る。底面はセクション図の示すとおり、ＳＤ003が舟底状を呈し、ＳＤ004はほとんど平坦である。

ＳＤ007溝

Ｂ～Ｅ－２～３グリッドで検出した。おそらくは２つの溝が切り合っているものと考える。検出全長は16m程度、幅は西半部が0.8m、東半部が1.2m程度を測る。断面形はFig. 6（３・４）が

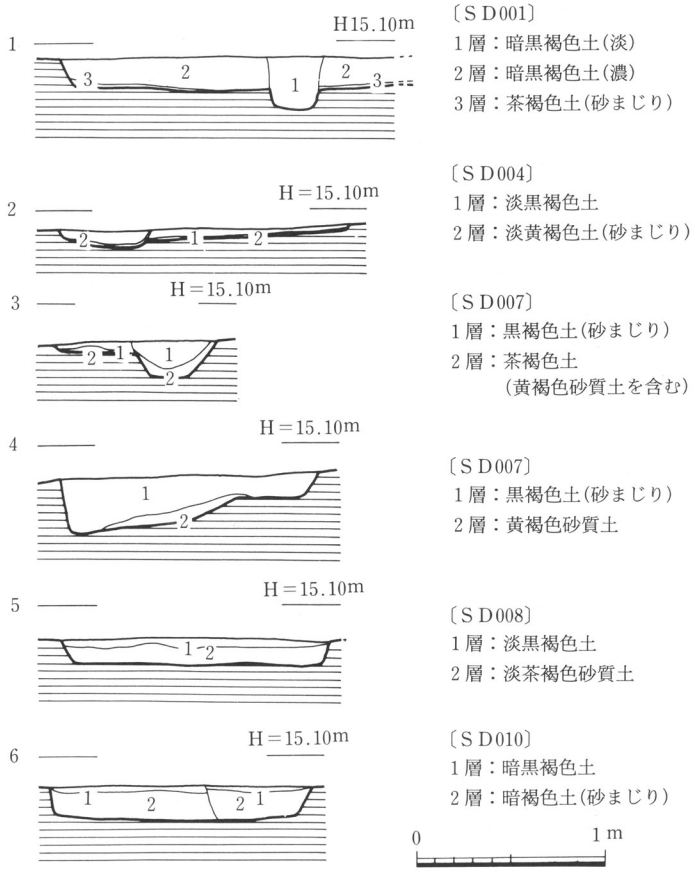


Fig. 6　ＳＤ001･004･007･008･010溝土層図(Ｓ＝１/40)

示すとおり、西半部が逆台形状を呈し東半部と別遺構の様相を見せる。深さは西半部で0.2m、東半部で0.2～0.3mを測る。

埋土は２層に大別でき、上層が黒褐色土、下層が茶褐色土からなる。出土遺物は埋土中から図化不能な土師器微細片を微量検出した。

ＳＤ008溝

Ｂ～Ｆ－２・３グリッドで検出した。ＳＤ007とほぼ平行に走る。検出全長は23m程度を測るが、部分的に削平が進んでいる。深さは0.15m程度で、底面には緩やかな起伏がある。

埋土は２層に大別でき、上層が淡黒褐色土、下層が黄褐色砂質土からなっている。出土遺物は全く得られなかった。

ＳＤ010溝

Ｃ・Ｄ－１・２グリッドで検出した。検出全長は６m程度、深さは0.18m程度を測る、地区外に延びる小規模の溝に切られている。底面はわずかな起伏がみられるものの概して平坦であり壁は比較的角度をもって立ち上がる。

埋土は２層に大別でき、上層が暗黒褐色土、下層が暗褐色土からなり、下層になるに従い砂粒が増す。

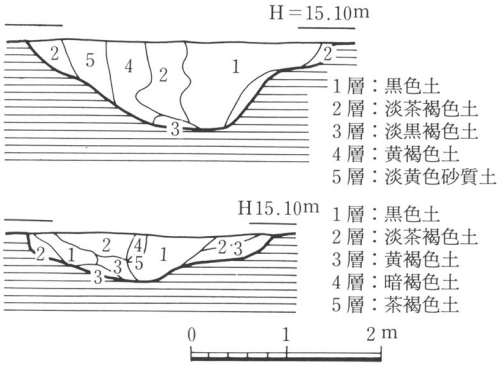


Fig. 7　ＳＸ013・014土層図
(Ｓ＝１/80)

出土遺物は全く得られなかった。

３．その他（Fig. 7）

調査区中央で風倒木跡を２箇所に確認した。これは市域のいくつかの発掘調査現場で検出し

ているが、通常この掘削まではしないことが多かったので参考のために調査をしてみた。やはりその土層も Fig. 7 にあるとおり不自然な堆積状況を呈している。

4．出土遺物（Fig. 8）

今回検出した遺物は、遺構同様その残存状況は良好ではなかったが、遺跡の時期を判定する指標になるので、細片であっても掲載する。

1～5は土師器皿。1は底径3.6cm、残存器高0.9cm。色調は淡褐色を呈する。底部には糸切り痕を有する。2は器高1.7cm。残存状況が不良なため口径の復元は不能。色調は淡褐色を呈する。3も2同様残存状況が不良。器高1.5cm。底部外面に糸切り痕を観察できる。4は口径6.6cm、器高1.1cm、底径4.6cm。底部外面には糸切り痕がある。色調は淡橙色を呈する。6は陶器灯明皿か。外径6.9cm、器高1.5cm、底径4.8cm。内径は端部が欠失しているため不明。底部内外面に煤が不着している。色調は赤褐色を呈する。7は陶器鉢か。暗赤褐色を呈する。8は陶器碗。残存器高3.7cm。色調は黒褐色を基調としている。9は土師器鍋か。残存器高5.6cm色調は暗褐色。外面に煤が不着している。10は磁器。残存器高4.4cm。染め付けの碗。11は染め付けの磁器皿。口径12.2cm。器高2.6cm、底径6.8cm。12は銅製品の碗か。残存長8.5cm、残存幅2.7cm。13はＳＤ008からの検出ではあるが、流れ込みの遺物である。材質はサヌカイトか。最大幅5.2cm、長さ6.3cm、厚さ1.3cm。14・15は調査区の表土下層の検出である弥生土器の甕。14で底径8．2、残存器高2.1cm、15で底径8cm残存器高3.1cm。色調は淡褐色、赤褐色をそれぞれ基調としている。

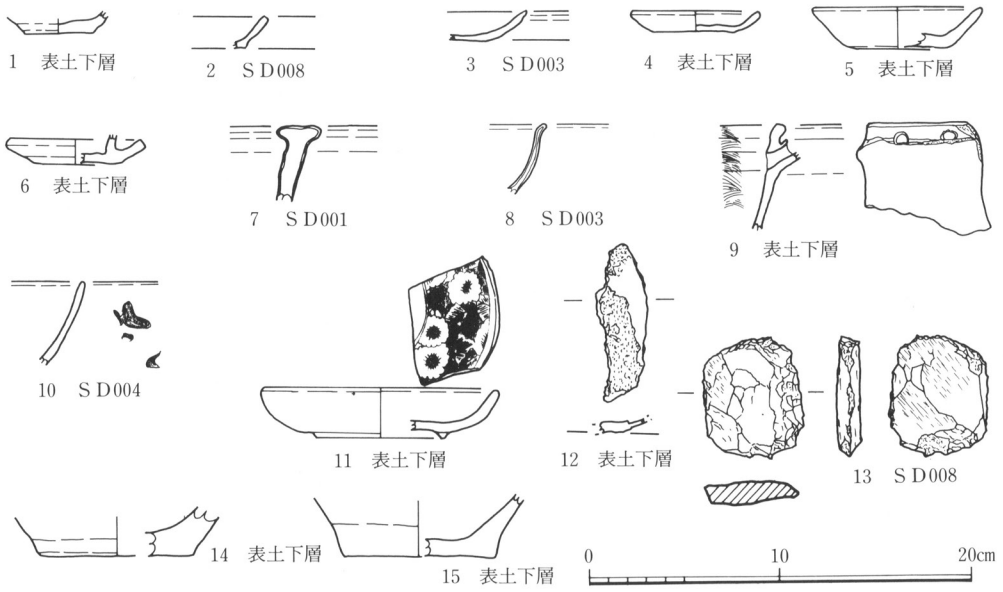


Fig. 8　大野原遺跡（２区）出土遺物実測図（Ｓ＝１／４）

5．小　　結

今回の調査地点は水田からの比高約１ｍの割りには検出遺構の削平が著しく、良好な資料を得ることができなかった。この部分はある時期、畑地から水田にするため一度地下げをした後、河川氾濫により堆積した土砂を寄せ集めたものかもしれない。ともかく、中世から近世にかけての集落の広がりを考えるうえでは一資料となるであろう。

ここで検出には至らなかったが、古代官道について若干ふれてみる。今回の工事地区の北端は大野原の集落が所在する低丘陵と接している。この部分が古代官道推定ラインである。工事区の北東端に、設計変更によって水路が建設されることになったので、掘削機により試掘坑を設定した。しかし、官道の形跡は全く観察できず泥土のみであった。おそらくは、この部分も地下げによって削平を受けているものと考える。なお、この部分の東側・西側の地区外には、水田地割りにより官道ラインが推定できる。（図版 Fig. 2）

また、この古代官道の全体的な発掘調査は、佐賀県教育委員会が主体となり実施している。今回の工事地区でも、県教委による試掘坑も設定されたが遺構は検出しなかったとの報告をうけている。やはり、同地区は相当範囲で地下げがなされたものということができる。

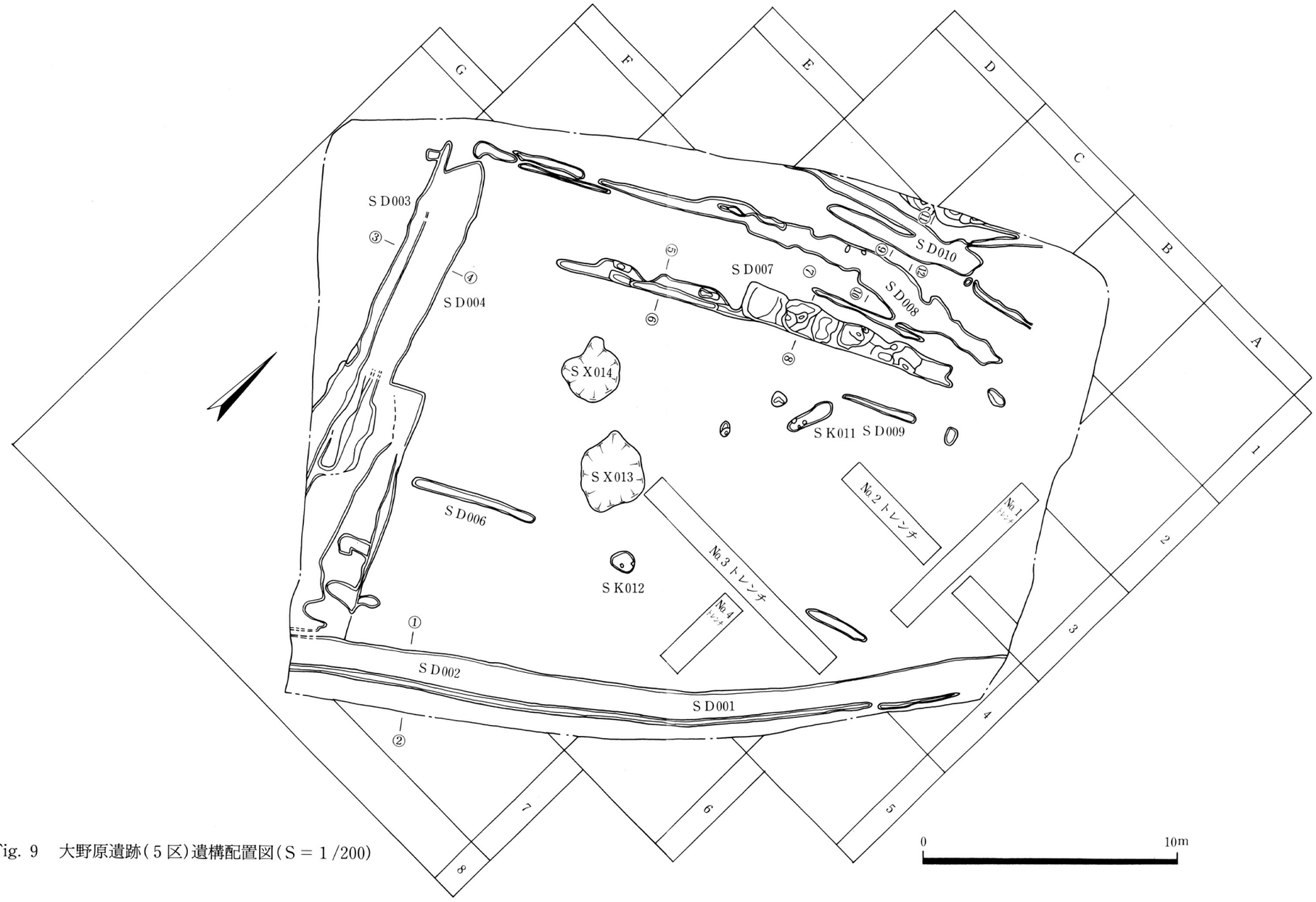
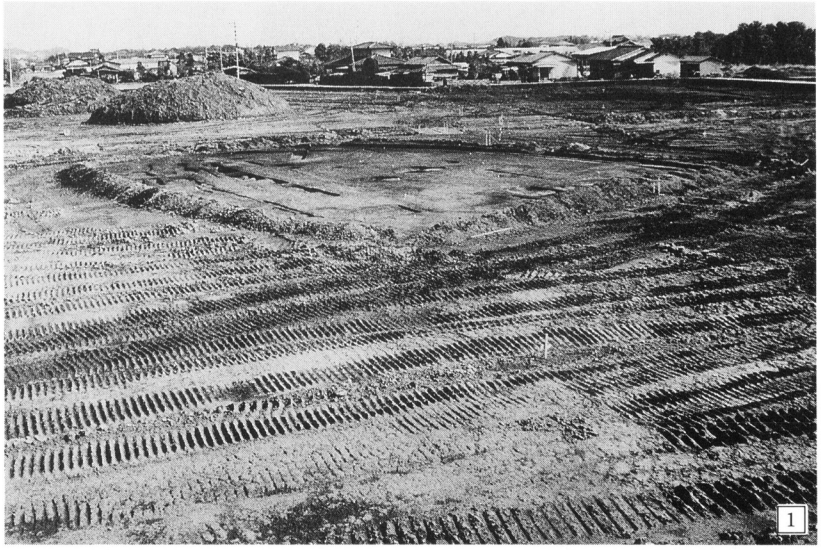
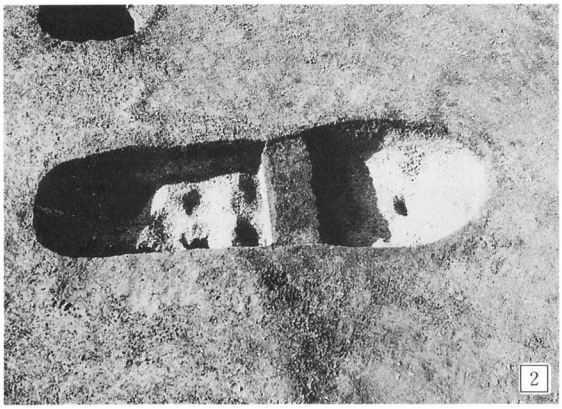


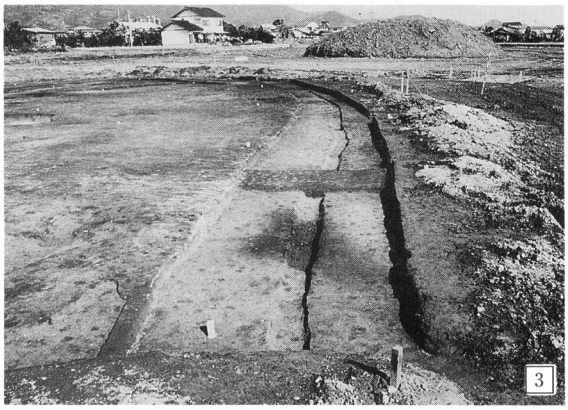
Fig. 9　大野原遺跡(5区)遺構配置図(S = 1/200)

図　　版

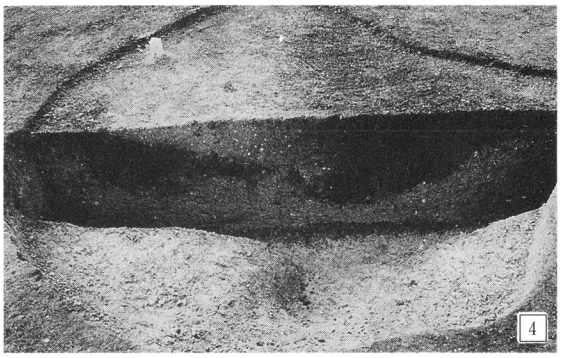


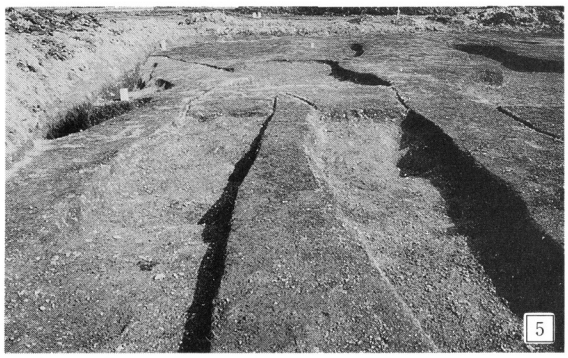
1．調査区全景
2．ＳＫ011
3．ＳＫ012
4．ＳＤ001・2
5．ＳＤ003・4

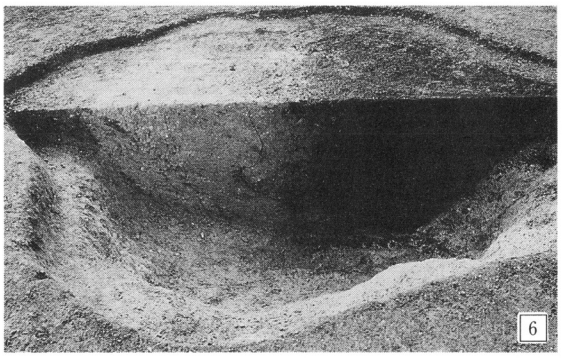




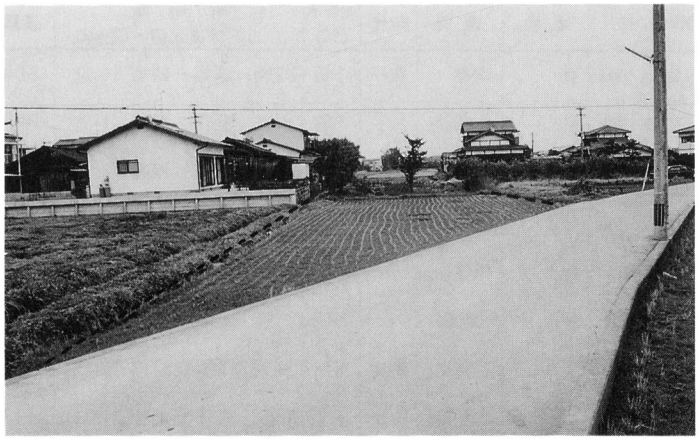
PL－2

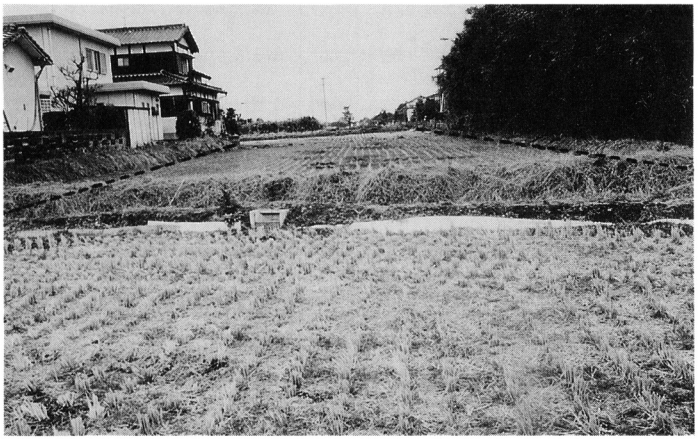




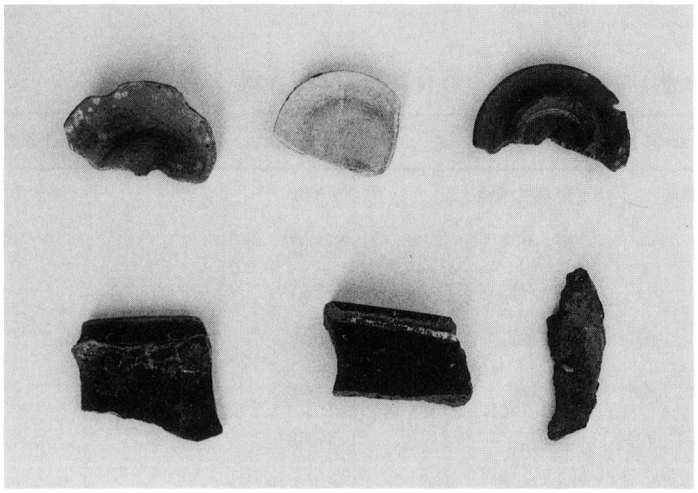


1．ＳＤ007
2．ＳＤ007・８・10
3．ＳＤ010
4．ＳＸ013・014
5．ＳＸ013
6．ＳＸ014
7．作業状況





大野原集落内に残る
官道の地割（調査区北東
約200m付近



大野原遺跡（５区）
主要出土遺物

大野原遺跡（2区）（ONR—2）　I種　収蔵品目録

番　号	名称	種別	時代	残存率(%)	計測値 (　)内は復元値・残存値	遺構名	出土年月	実測図番号	報告書Fig番号	コンテナ番号	A・Bの別
ONR-5-001	甕	陶器	江戸	不明	口径—底径—器高（4.0）	SD001	930127	1-1	8-7	1	A
ONR-5-002	坏	土師器	〃	不明	口径—底径—器高（1.5）	SD003	930127	1-2	8-3	1	〃
ONR-5-003	碗	陶器	〃	不明	口径—底径—器高（3.7）	SD003	930127	1-3	8-8	1	〃
ONR-5-004	坏	土師器	〃	不明	口径—底径—器高（1.7）	SD004	930127	1-4	8-2	1	〃
ONR-5-005	碗	染付	〃	不明	口径—底径—器高（4.4）	SD004	930127	1-5	8-10	1	〃
ONR-5-006	坏	土師器	〃	不明	口径—底径—器高（1.7）	SD008	930127	1-6		1	B
ONR-5-007	スクレパー	石製品	縄文	不明	長(6.3)幅(52)厚(13.3)	SD008	930127	1-7	8-13	1	A
ONR-5-008	甕	弥生土器	弥生	不明	口径—底径(8.0)器高(3.1)	表土下層	930127	1-8	8-15	1	〃
ONR-5-009	甕	弥生土器	〃	不明	口径—底径(8.2)器高(2.1)	表土下層	930127	1-9	8-14	1	〃
ONR-5-010	小皿	土師器	江戸	40	口径(6.6)底径(4.6)器高1.1	表土下層	930127	1-10	8-4	1	〃
ONR-5-011	小皿	土師器	〃	不明	口径—底径3.6器高0.9	表土下層	930127	1-11	8-1	1	〃
ONR-5-012	坏	土師器	〃	40	口径(8.8)底径(5.4)器高2.2	表土下層	930127	1-12	8-5	1	〃
ONR-5-013	鍋	土師器	〃	不明	口径—底径—器高(5.6)	表土下層	930127	1-13	8-9	1	〃
ONR-5-014	灯明皿	陶器	〃	不明	口径(6.9)底径4.8器高(1.5)	表土下層	930127	2-14	8-6	1	〃
ONR-5-015	皿	染付	〃	20	口径(12.2)底径(6.8)器高2.6	表土下層	930127	2-15	8-11	1	〃
ONR-5-016	銅製品	皿	〃	不明	口径—底径—器高(0.6)	表土下層	930127	2-16	8-12	1	〃

大野原遺跡（5区）（ONR—5）　II種　収蔵品目録

地区名	種別	時代	遺構名	出土年月	コンテナ番号	袋数	備考
ONR — 5	甕,陶器,石器	江戸	SD001	93・1	1	2	
〃	甕，坏	〃	SD003		1	2	
〃	小皿，甕，坏	〃	SD004		1	1	
〃	甕，鍋	〃	SD007		1	1	
〃	甕	〃	SD008		1	1	
〃	甕	〃	SK560		1	1	
〃	甕，石器	弥生・江戸	表土下層	93・1	1	1	

佐賀市文化財調査報告書第52集

大野原遺跡（５区）

平成６年３月31日

発行　佐賀市教育委員会
佐賀市栄町１番１号

印刷　㈱昭和堂印刷
佐賀市神野西４－１－32
TEL 0952(33)1221